



県内経済情勢 (令和6年7月判断)

令和6年8月6日

財務省関東財務局
千葉財務事務所


照会先

千葉財務事務所 財務課 (TEL 043-251-7213)

ホームページ <https://lfb.mof.go.jp/kantou/chiba/>

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、持ち直している」









項目	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回比較
総括判断	一部に弱さがみられるものの、持ち直している	持ち直している	

（注）6年7月判断は、前回4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回比較
個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	
生産活動	足踏みの状況にある	持ち直しつつある	
雇用情勢	持ち直しの動きに一服感がみられる	緩やかに持ち直しつつある	
設備投資	5年度は増加見込みとなっている	6年度は増加見込みとなっている	
企業収益	5年度は増益見込みとなっている	6年度は増益見込みとなっている	
企業の景況感	「下降」超となっている	「下降」超となっている	
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

物価上昇の影響がみられるなか、百貨店販売額や家電大型専門店販売額は前年を下回っているものの、スーパー販売額やドラッグストア販売額などは前年を上回っている。乗用車の新車登録届出台数は一部メーカーの生産・出荷停止の影響により前年を下回っている。娯楽などは緩やかに回復しつつある。このように個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 外出機会が引き続き増加していることもあり衣料品、化粧品に動きがみられるものの、来店客数がGWなどを中心に伸び悩んだことから、売上は前年を下回っている。(百貨店・スーパー)
- 物価高騰による値上げの効果もあり売上高は好調に推移しているほか、客数も増加傾向にあることから業況は良い。(百貨店・スーパー)
- 消費者はより割安感のある商品を選ぶようになってきており、原材料価格高騰の影響によって割高感が強くなった弁当などの商品で伸びが鈍化してきている。(コンビニエンスストア)
- 化粧品が昨年のコロナ5類移行後から引き続き好調に推移しているほか、6月は梅雨入りが遅く気温が高かったことなどからUVケア商品や汗拭きシートといった暑さ対策商品の売れ行きが良かった。(ドラッグストア)
- 半導体不足緩和による自動車生産の回復に伴い、これまで滞っていたバックオーダー分の完成車が続々届いており、納車が短期化してきている中で、自動車メーカーによる認証不正問題の影響を受け、注文キャンセルなどの動きもみられる。(自動車販売)
- コロナ5類移行に伴う行動規制解除後の特需があった昨年からの反動はみられるも平常時に戻ったとの認識であるほか、円安によりインバウンド需要が高まっていることもあり、業況としては悪くない。(娯楽)
- 足下の観光需要の動向としては、GWに関しては遠距離旅行へのシフトなどによる影響から伸び悩みがみられたが、観光各地の客足自体は回復傾向が続いている。(業界団体)

■ 生産活動 「持ち直しつつある」

生産を業種別にみると、汎用・業務用機械、金属製品などが減少しているものの、化学、石油・石炭製品、食料品などが増加しており、全体としては、持ち直しつつある。

- 今期は海外においてコロナ禍からの需要回復を見込んでいたが、想定よりも回復が進んでいない。(汎用・業務用機械)
- 石化製品の生産量は、コロナ禍における巣ごもり需要の反動で低下し続けてきた包装材向けの製品を中心に需要回復の動きがみられることから、昨年と比べるとやや上向いている。(化学)
- 需要が安定的に推移している中で、ほぼフル稼働に近い状況となっており、生産量は増加している。(石油・石炭)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直しつつある」

新規求人数は減少しているものの、有効求人倍率は上昇している。雇用保険受給者実人員は前年を上回っている。このように雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

- 人材確保のため、今春もベースアップと定期昇給を実施したほか、同業他社に対抗して初任給を大幅に引き上げたところだが、その分既存社員とのバランス問題が発生するため頭を悩ませている。(建設業)
- 正規社員は増員しているものの未経験者を含むため純粋な戦力増となっていないほか、非正規社員も必要な人員を確保できていないため、委託・派遣など外部の労働力に頼っており、正規・非正規ともに人員不足の状態である。(小売業)
- パートタイム職員については応募が集まらず不足感があり、これを補うために隙間時間アルバイトを活用している。(娯楽)

■ 設備投資 「6年度は増加見込みとなっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4~6月期

○ 製造業では前年比増減率8.7%の増加見込み、非製造業では同60.8%の増加見込みとなっており、全規模・全産業では同52.9%の増加見込みとなっている。

■ 企業収益 「6年度は増益見込みとなっている」 (全規模) 「法人企業景気予測調査」6年4~6月期

○ 製造業では前年比増減率19.7%の減益見込み、非製造業では同2.8%の増益見込みとなっており、全規模では同0.1%の増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超となっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4~6月期

○ 先行きについては、6年7~9月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

○ 新設住宅着工戸数をみると、持家は前年を下回っているものの、貸家、分譲住宅は前年を上回っており、全体として前年を上回っている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

○ 公共工事請負金額をみると、前年を上回っている。

県内経済情勢 (令和6年7月判断)

(資料)

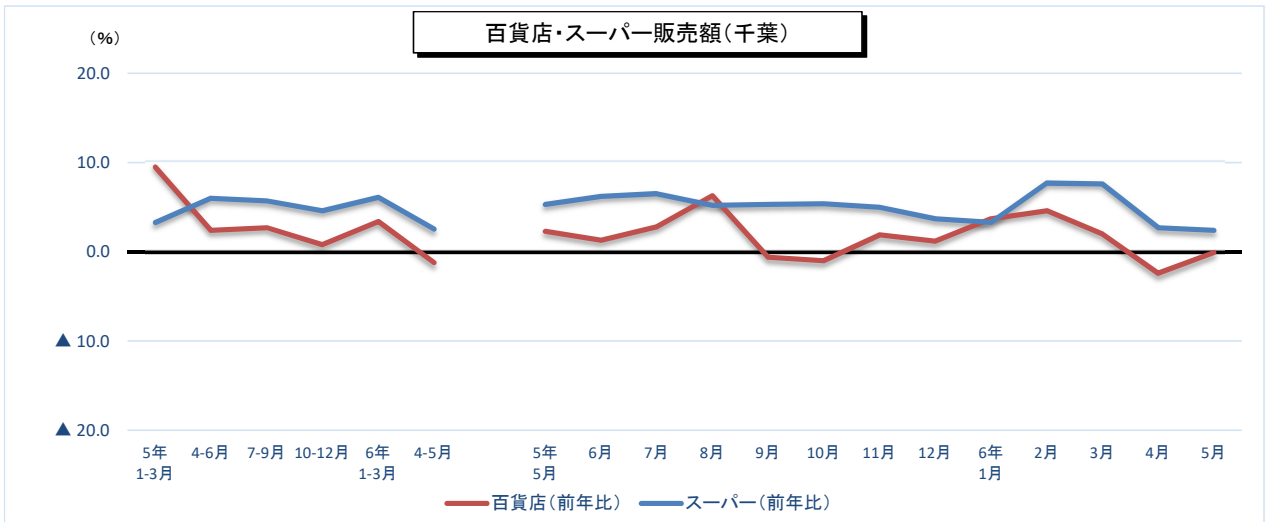
目次	(頁)
1. 個人消費	1
2. 生産活動	2
3. 雇用情勢	3
4. 設備投資	4
5. 企業収益	4
6. 企業の景況感	4
7. 住宅建設	5
8. 公共事業	5

令和6年8月6日

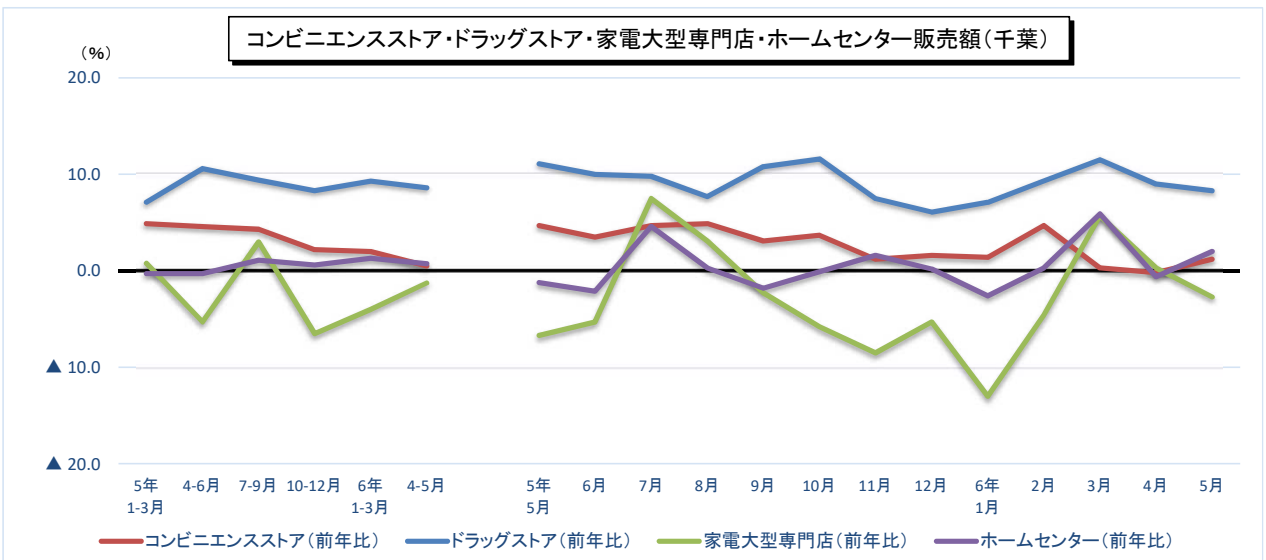
財務省関東財務局
千葉財務事務所

1. 個人消費

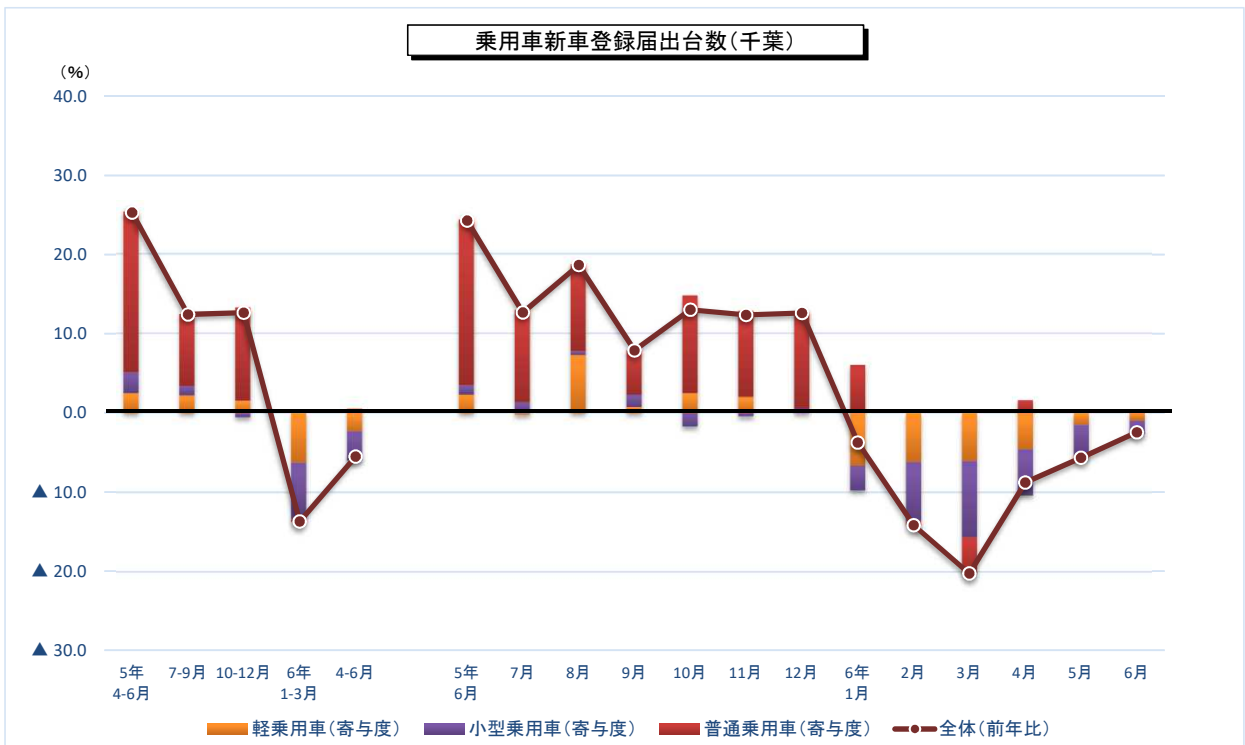
一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある



[経済産業省]



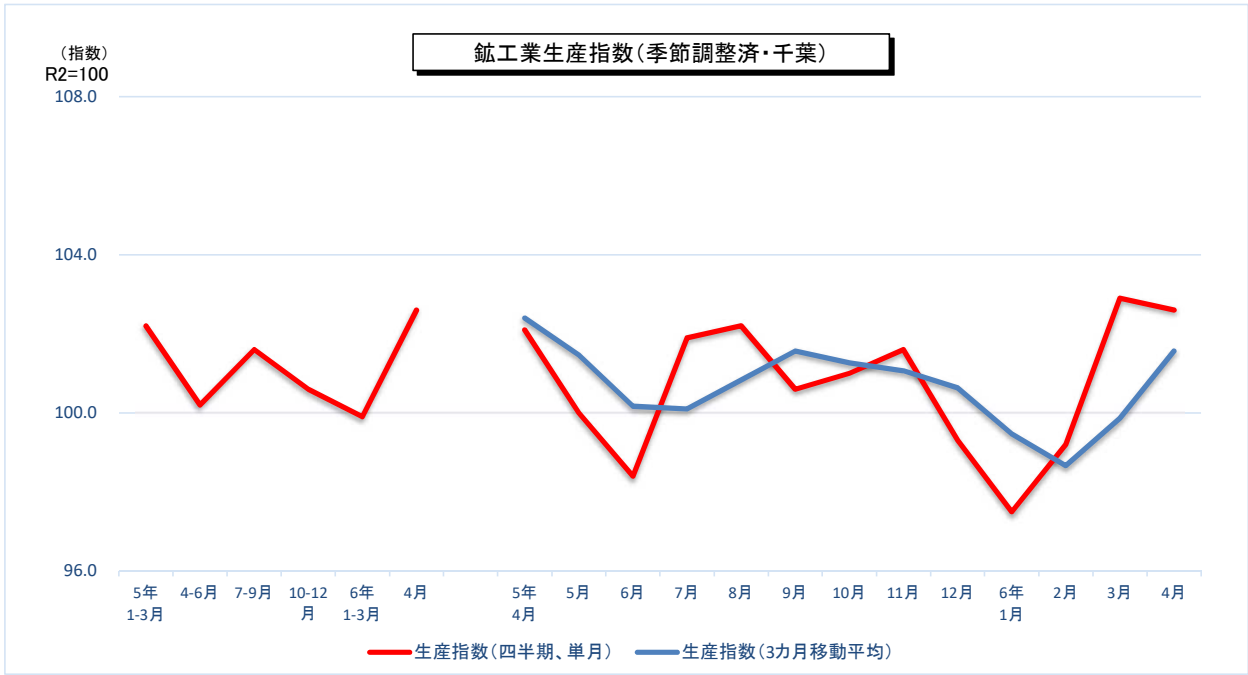
[経済産業省]



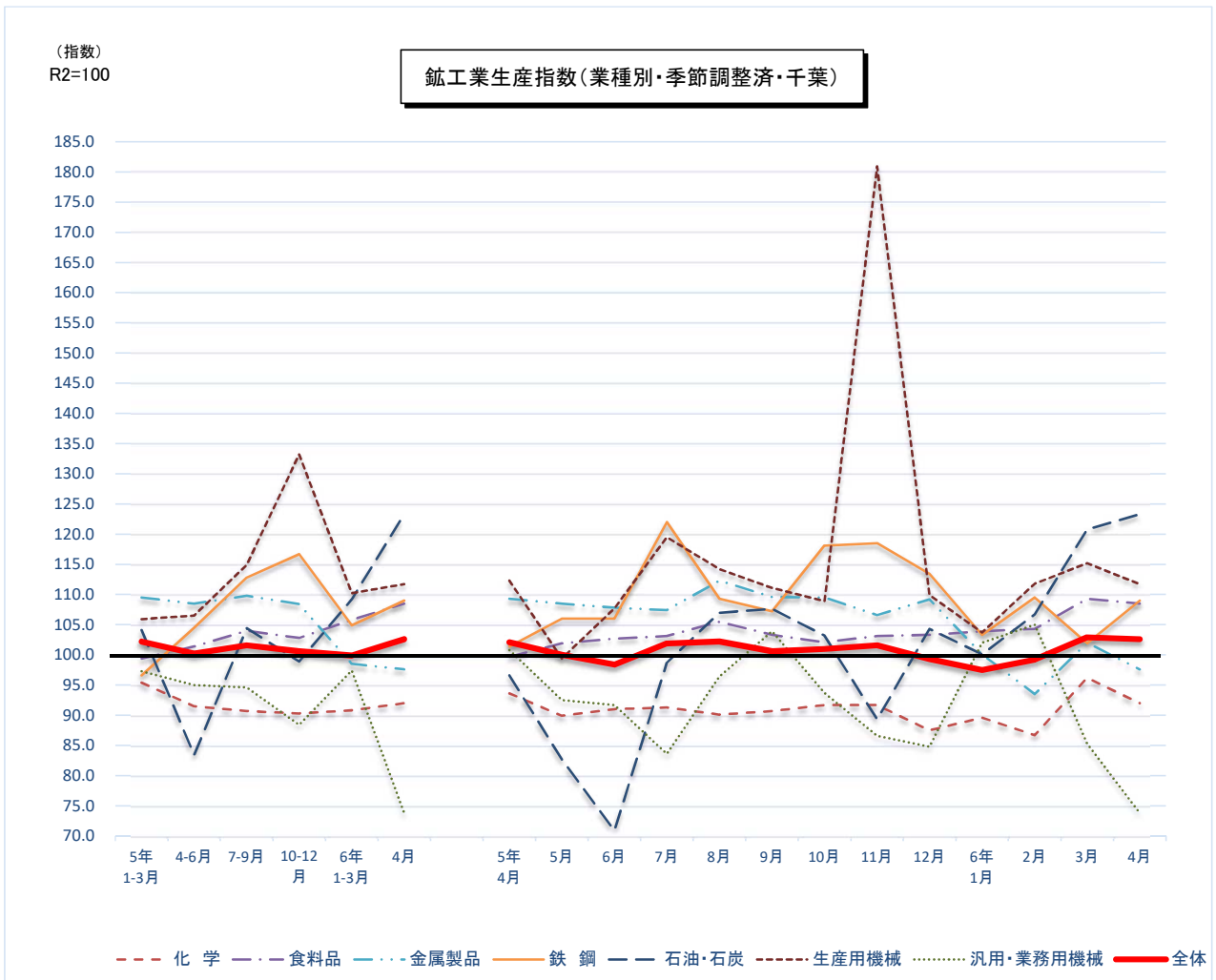
[日本自動車販売協会連合会・全国軽自動車協会連合会]

2. 生産活動

持ち直しつつある



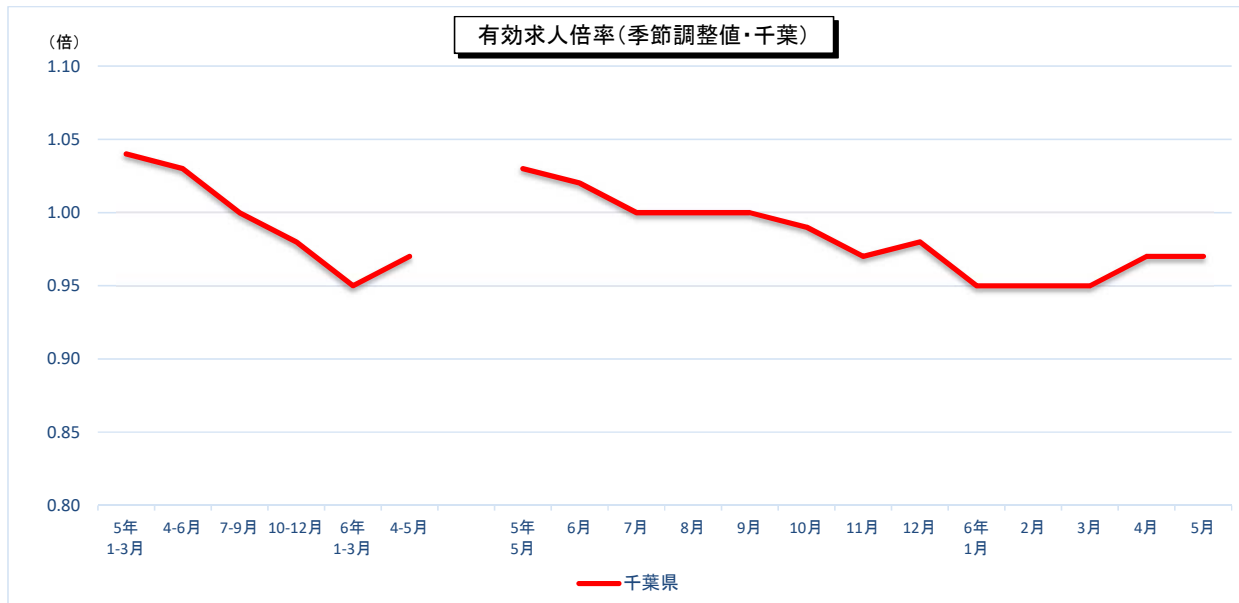
[千葉県]



[千葉県]

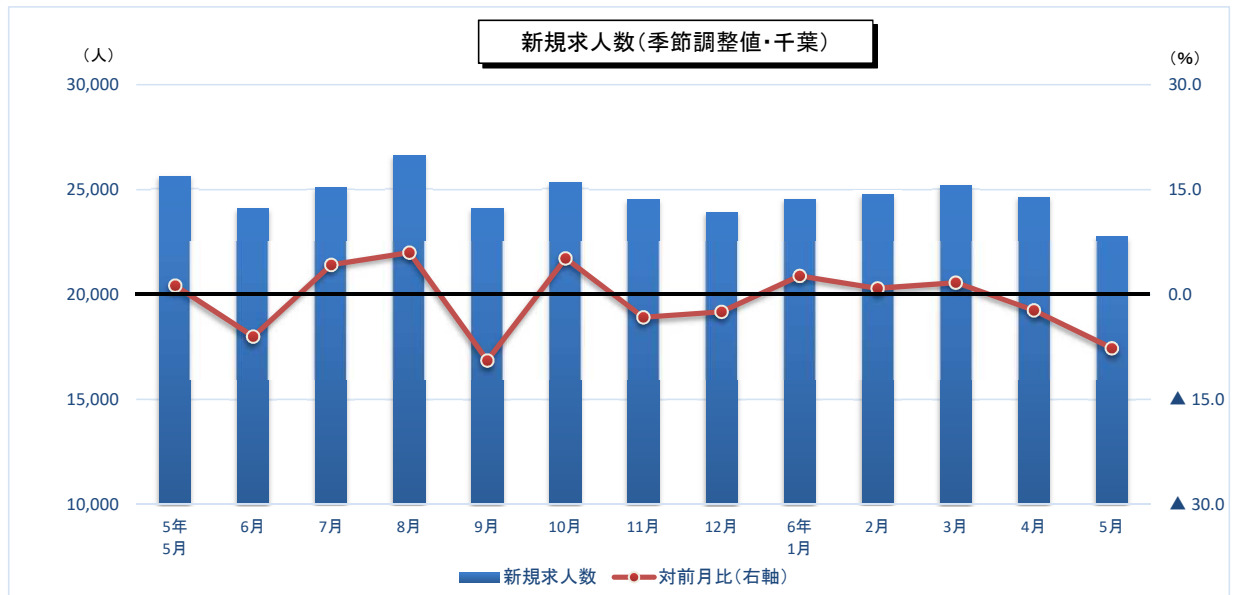
3. 雇用情勢

緩やかに持ち直しつつある

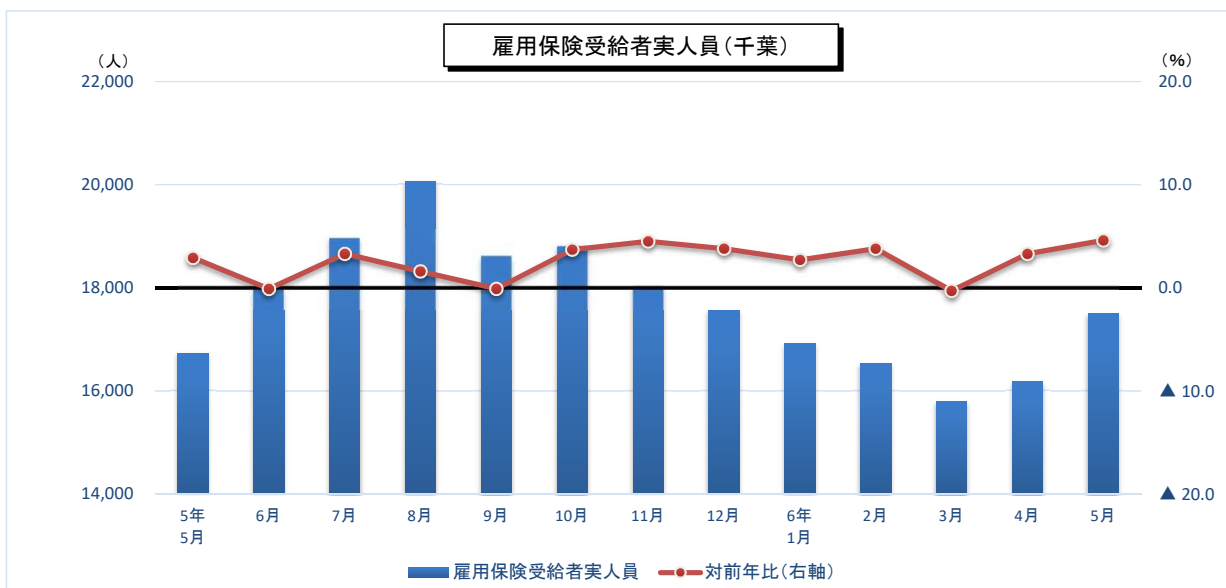


(注)四半期は期中平均である。

[千葉労働局]



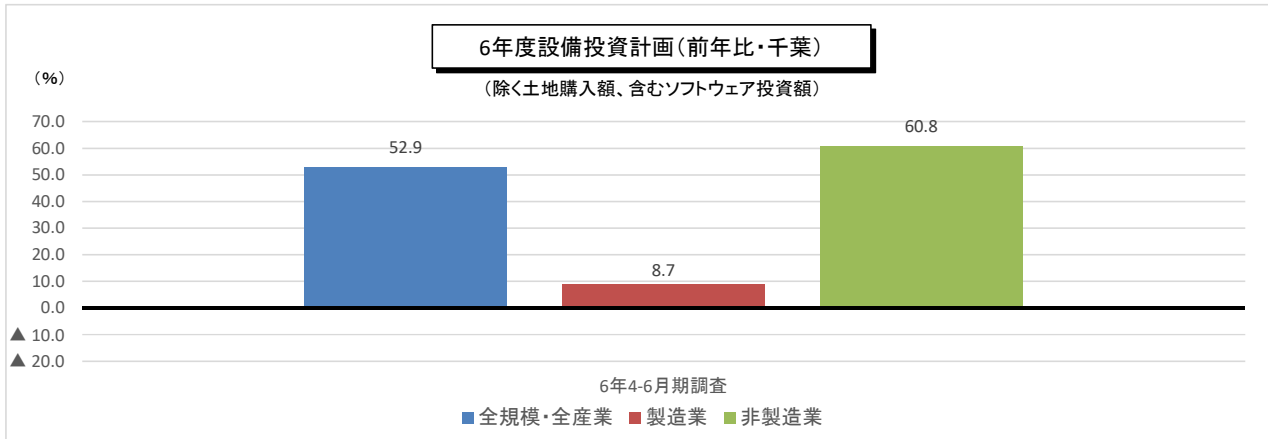
[千葉労働局]



[千葉労働局]

4. 設備投資

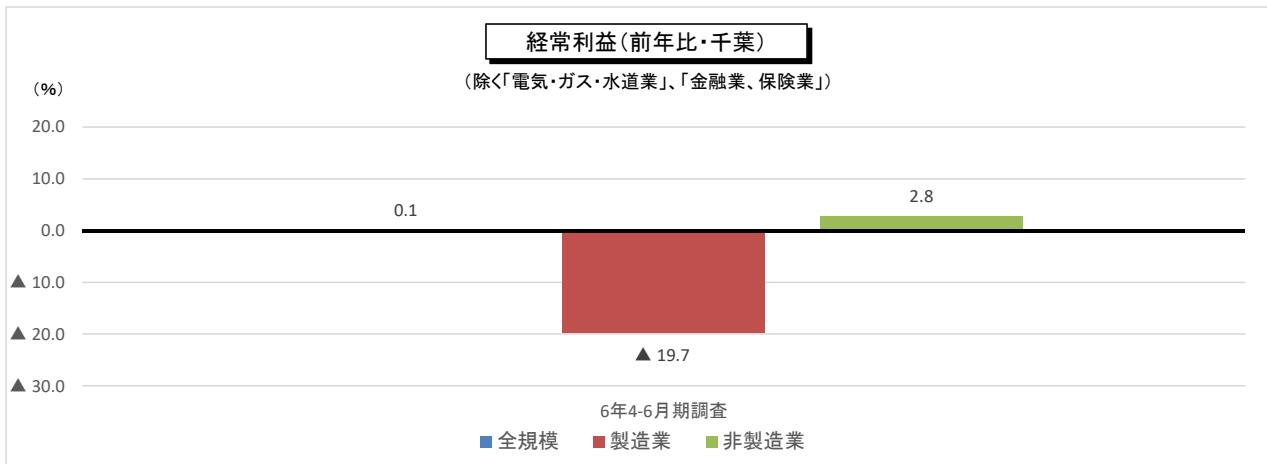
6年度は増加見込みとなっている



[千葉財務事務所(法人企業景気予測調査)]

5. 企業収益

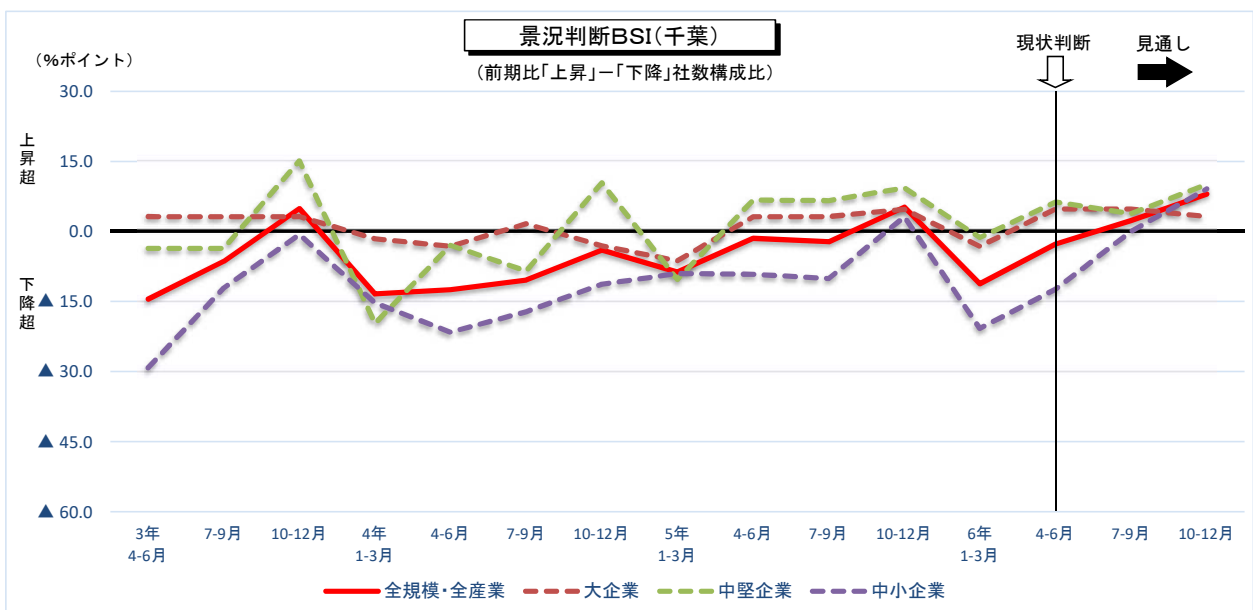
6年度は増益見込みとなっている



[千葉財務事務所(法人企業景気予測調査)]

6. 企業の景況感

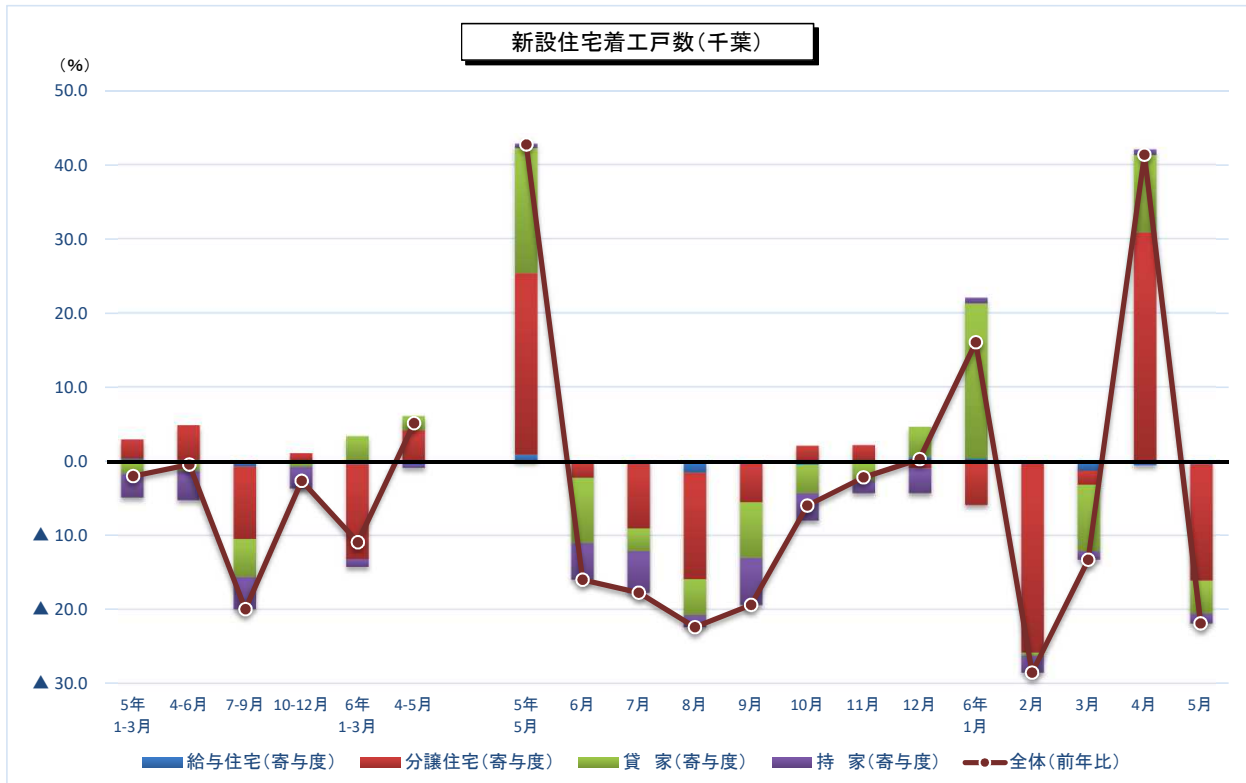
「下降」超となっている



[千葉財務事務所(法人企業景気予測調査)]

7. 住宅建設

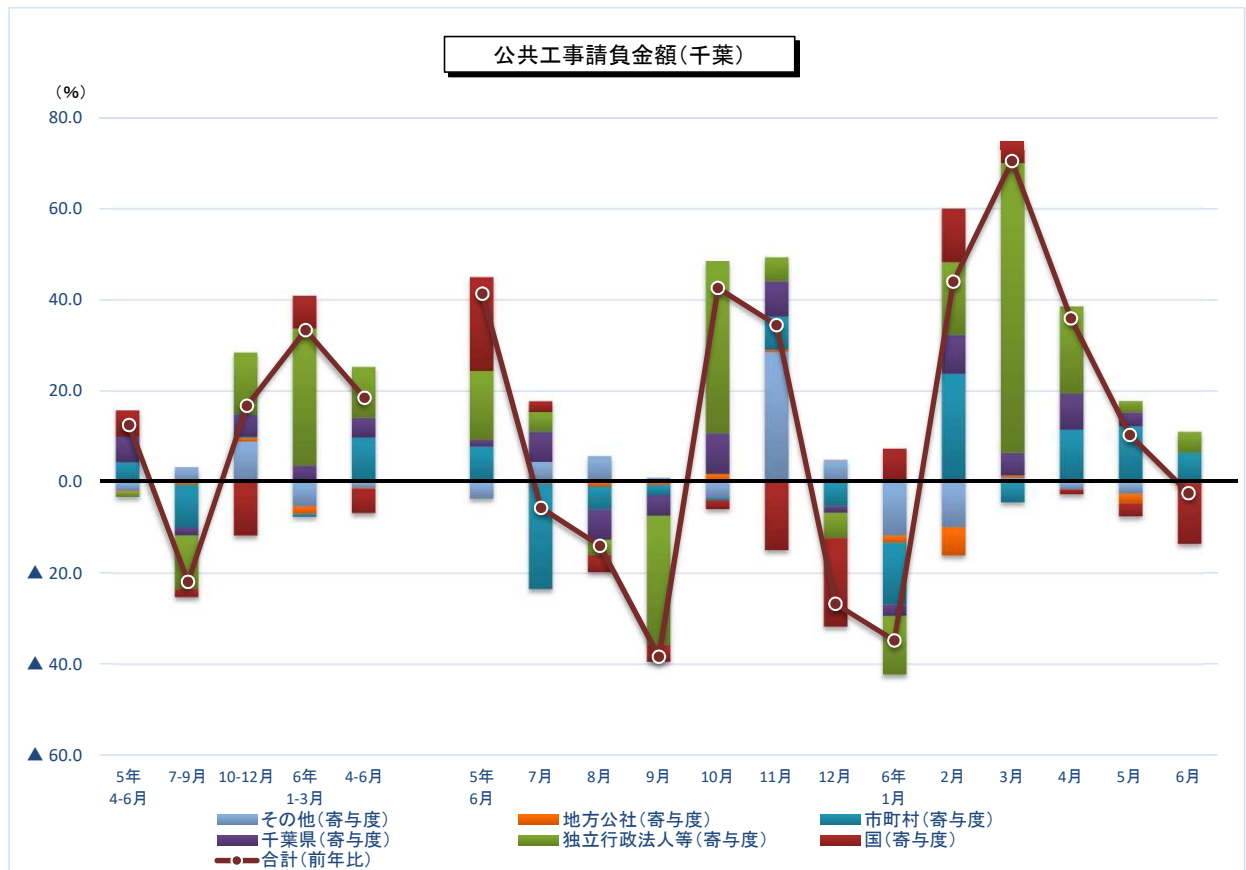
前年を上回っている



[国土交通省]

8. 公共事業

前年を上回っている



[東日本建設業保証株式会社他]